

8月に予定されているセンターのイベント情報や、  
 其他のお知らせについてご案内します。

## 夏休みスペシャルプログラム「漫湖自然学校」

今年も夏休みがスタートしました！夏休みの後半、8月に予定している「漫湖自然学校」のプログラムをご紹介します。

- 期間：～8月25日(日)まで
- 場所：漫湖水鳥・湿地センター

### 「漫湖自然学校」8月のご案内

観察会：「泥の中のいきものたち」8月3日(土) 10:00～12:30  
 「漫湖のカニ探検隊」8月4日(日)／8月18日(日) 10:00～12:00  
 「ナイトウォーク」8月25日(日)18:00～20:00

研究室：「カメ博士の部屋」8月9日(金) 10:00～12:00  
 「バズーカメラをつくろう」8月10日(土) 10:00～12:00  
 「マングローブ染め工房」8月11日(日) ①9:00～11:30 ②14:00～16:30  
 「ハゼ博士の部屋」8月16日(金) 10:00～12:00  
 「カニ博士の部屋」8月24日(土) 10:00～12:00

### 「自由研究相談室」

漫湖自然学校では、夏休み開館中毎週金曜日に子どもたちの自由研究をサポートする「自由研究相談室」も実施しています。お気軽にお声掛けください。

※各イベントの予約お申し込みは、開催日の二週間前から行います。  
 ※「漫湖自然学校」8月のイベント情報や詳しい内容は、電話でのお問い合わせか、またはセンターホームページをご覧ください。

### 「お問い合わせ」

漫湖水鳥・湿地センター ☎98-840-5121

Topic:

いきものファインダー  
 漫湖の風景 19



### 他人の巣に、勝手に居候するクモ。

梅雨入りした沖縄は、6月に入ってもじめじめとした日が続いていた。そんな中、木道を散策していると、オオジョロウグモがリュウキュウアブラゼミを捕食している場面に会った。しばらく見ていると、オオジョロウグモのまわりで何やら鉛色のしずくのようなものが揺れているのが見えた。大きさは1ミリ程度だが肉眼では確認できないので、カメラで撮影し拡大して見てみた。すると小さなクモだった。調べてみるとシロカネイソウロウグモという、オオジョロウグモの巣に居候して生活するクモだということが分かった。居候と名が付く割にはその形態と色彩は主張が強いような気もするが、オオジョロウグモはその小さな厄介者を気にもとめないらしい。これを生きものの世界では「片利共生」と言う。

## 鳥と同じように、 空を飛びいきもの、 コウモリのフシギにせまる。

「皆さんはコウモリについて、どれくらい知っていますか？」

6月に実施した自然観察会「コウモリのうんち」は、講師の吉岡さんのこんな質問ではじまりました。

コウモリは、鳥と同じように空を飛ぶことができる生き物です。そのせいか、子どもたちに限らず大人の方でも、コウモリと鳥が同じ仲間だと勘違いしている人は、意外にも少なくありません。今回の観察会では、コウモリの観察を通してその生態について理解するだけでなく、実は、鳥の生態についての正しい理解へと導くこともねらいとしています。



今回、この観察会のために沖縄こどもの国からオリオオコウモリのジュンちゃんもわざわざ駆けつけてくれました。コウモリを間近で見たことない参加者や子どもたちはみんな大興奮。生きたコウモリを目の前に目をキラキラ輝かせる子どもたち。途中少し難しい話もありましたが、最後まで集中して聞いて

いました。話の中で吉岡さんは、コウモリの生態について分かりやすく説明してくれると同時に、コウモリと鳥の違いやコウモリが以外にも身近な生きものであることを私たちに教えてくれました。



観察会の後半は、実際にコウモリが残したフィールドサインを見つけに近くの公園へと出かけました。そこにはベリット（食べかす）やウンチが落ちていて、私たちの周りにコウモリが生活していることに子どもたちはみんな驚いていました。そして今回の観察会を締めめたのは、なんとジュンちゃんでした！外の観察から戻ってきてまどめをしているときにウンチをしてしまったのです。そこにいた全員が「コウモリのうんちだ！」と声をあげていました。ジュンちゃんお疲れ様でした。

■ 2013.6/1 — 2013.6/30

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 25 種 }

### 漫湖寄鳥見鳥

### 漫湖で確認された鳥類一覧

6/15



1. キジバト	26.
2. ゴイサギ	27.
3. アマサギ	28.
4. アオサギ	29.
5. ダイサギ	30.
6. チュウサギ	31.
7. コサギ	32.
8. オオバン	33.
9. チュウシャクシギ	34.
10. アカアシシギ	35.
11. アオアシシギ	36.
12. キアシシギ	37.
13. オバシギ	38.
14. コアジサシ	39.
15. ミサゴ	40.
16. カワセミ	41.
17. ハシブトガラス	42.
18. シジュウカラ	43.
19. リュウキュウツバメ	44.
20. シロガシラ	45.
21. ヒヨドリ	46.
22. メジロ	47.
23. イソヒヨドリ	48.
24. カワラバト(ドバト)※	49.
25. シマキンパラ※	50. ※は外来種

### オバシギがやってきた。

オバシギがやってきた。漫湖では約5年ぶりの確認だ。センターの過去の記録を調べてみると、平成15年以降は平成20年に1度だけ確認されているだけである。今回の飛来はそれ以来ということになる。それを考えると、1羽だけだが、元気よくエサを捕っている様子が確認できたのは、とても喜ばしいことである。

久しぶりに漫湖に飛来したオバシギは、背はほとんどが冬羽に換羽している中、胸は黒斑が特徴的な夏羽がまだ大分残っているという状態で、その装いもまた印象的だった。

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。